



子育て通信

プレール

令和8年度10月 泉ヶ丘地域子育て支援センター

前回はこどもを「認める・褒める」ことの大切さについて取り上げましたが、こどもが自分自身をコントロールし、社会で生きていく力を身に付けるためには、“正しく『叱る』”ことも必要です。

今回は『叱る』ことの意味やポイントについて考えていきます。

『叱る』と『怒る』は違います

『叱る』とは、間違いを知らせ、それがなぜいけないのかを伝えることです。それに対し『怒る』とは、感情のいら立ちを自分でコントロールできなくて相手に当たることです。

感情的になって怒ってばかりいると、こどもは怖さを感じ大人の顔色をうかがって行動するようになってしまいます。感情に任せて怒りそうになった時は、一度深呼吸をしてみましょう。大切なのは「何が正しいのか」「なぜいけないのか」を伝えることです。「怒られるからやめる」のではなく、自分で善し悪しを考えて行動できるように導いてあげましょう。

『叱る』べき場面とは

●身の危険がある時

こどもは経験の浅さや好奇心から危険な行動をする時があります。何が危険かを示し、安全と命を守りましょう。

●人を傷つける恐れがある時

相手を噛んだり叩くなど肉体的に傷つけたり、心無い言葉や態度で精神的に傷つけること。

●社会のルールやマナーに反する時

「小さいから仕方ない」と目をつぶっているとルールを知る機会を逃し、結局は本人が困ることにもなります。

<叱り方のポイント>

- ・**その場で叱る**…「何でさっきあんなことしたの」と後で叱ってもこどもは何を叱られているのか分かりません。いけないことをしたときはその場で対処しましょう。
- ・**くどくど叱らない**…必要なことを端的に短く伝えます。長々と話したり、関連付けてあれもこれもと伝えると何で叱られているのか分からなくなってしまいます。
- ・**行為を叱り人格は傷つけない**…「その行動はダメ」と行為だけ叱ります。本人を否定するように「いつもダメなんだから」「赤ちゃんみたい」などと言ったり、他の子と比較して叱ると、自己肯定感を下げ自信を失うことに繋がります。
- ・**こどもの気持ちを否定しない**…「〇〇が欲しかったから」「△△しようと思ったから」など、こどもの行動にも理由があります。「そうだったんだね。」とこどもの気持ちを理解した後で、いけなかったことを伝えます。頭ごなしに叱るより、先にこどもの気持ちを肯定してあげると、こどもも話を受け入れやすくなります。
- ・**正直に話したことを叱る**…打ち明けた瞬間に叱ると、次から隠したり嘘をつくようになってしまいます。勇気を出して正直に話したことは認めてあげましょう。
- ・**自分の責任で叱る**…公共の場などで「おじさんに怒られちゃうよ」とか、「後でお父さんに叱ってもらうからね」などということはやめましょう。叱る時は自分の責任で、そして“怒られるから”でなく“なぜいけないのか”をきちんと伝えないとはいけません。
- ・**一貫性を持つ**…同じことをしても、その時の気分や場所で叱ったり叱らなかったりすると、こどもは迷います。一貫性をもって、いけないことはきちんと理解させることが大切です。